

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2016 年第 25 週
(6/20～6/26)

Gifu Infectious Diseases Weekly Report 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

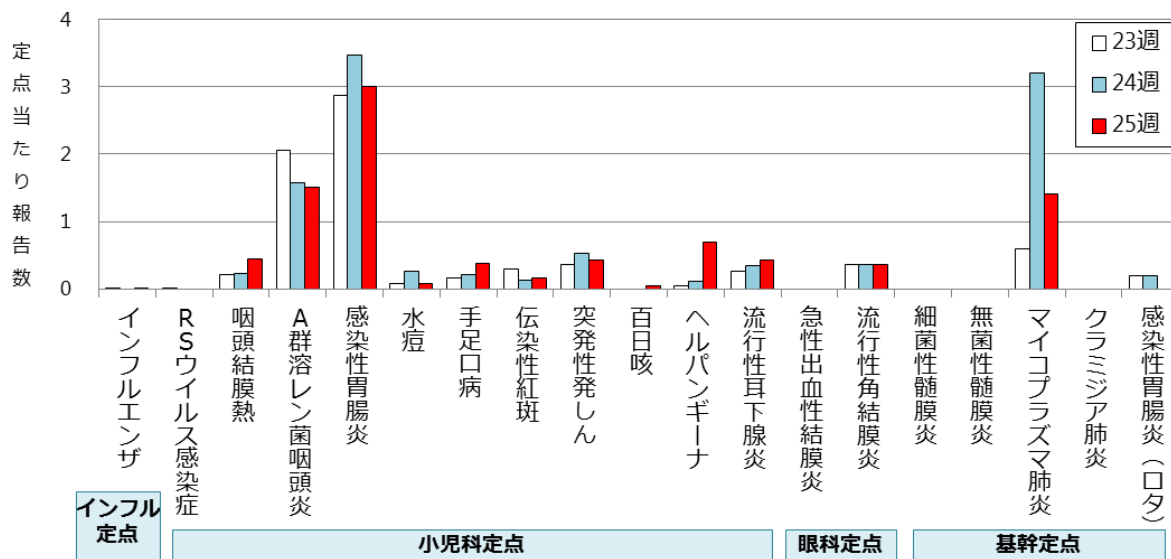
- ◇ ヘルパンギーナと手足口病が増加し始め、流行の兆しがみられています。→トピックス
- ◇ 咽頭結膜熱も前週より増加していますので、今後の動向に注意が必要です。

■ 定点把握対象疾患（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	なし	—
注意報レベル	なし	—

● 直近 3 週の比較



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 7 例
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例 (O103)
- 4 類感染症：マラリア 1 例 (感染地域：アンゴラ)、レジオネラ症 3 例
- 5 類感染症：なし

● 2016 年累計

1 類感染症	なし		
2 類感染症	結核	210 例	
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	12 例	
4 類感染症	A 型肝炎	1 例	マラリア 1 例
	つつが虫病	1 例	レジオネラ症 12 例
	デング熱	2 例	
5 類感染症	アメーバ赤痢	3 例	侵襲性肺炎球菌感染症 32 例
	ウイルス性肝炎	1 例	水痘 (入院例に限る) 4 例
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5 例	梅毒 13 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例	播種性クリプトコックス症 3 例
	後天性免疫不全症候群	15 例	風しん 2 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	3 例	

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報 (IDWR) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■トピックス

《ヘルパンギーナ・手足口病》

◆ 県内で流行の兆しがみられています

ヘルパンギーナと手足口病の患者報告数が県内で増加し始めています。

ヘルパンギーナは、過去2年、7月中旬にピークを迎えており、今後急速な患者の増加が予想されますので注意が必要です。

手足口病は、過去2年では、ピークの時期は異なりますが、7月から9月にかけて流行しました。今後の動向に注意が必要です。

現在のところ、いずれも岐阜地区での増加が目立っており、患者の年齢は、ともに3歳以下が全体の約8割を占めています。

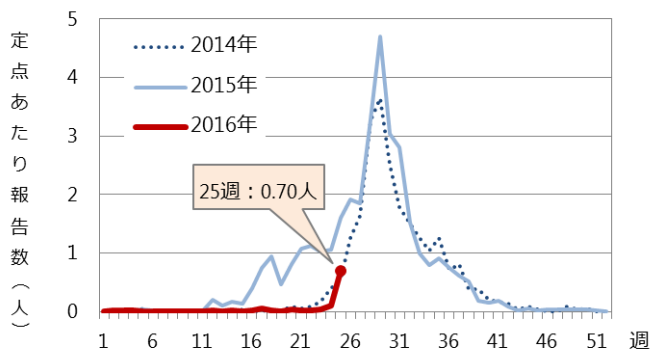
◆ 手洗いの励行を

ヘルパンギーナや手足口病の原因であるエンテロウイルスは、患者の鼻汁や便に排出され、飛沫感染や接触感染により周囲へ感染します。

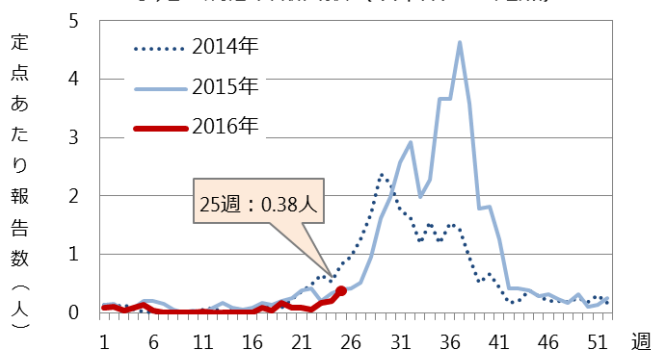
予防には、患者との密接な接触を避け、手洗いの励行、おむつなど汚物の適切な取扱いに努めることが重要です。

エンテロウイルスの場合、症状がなくなった後も2~4週間の長期にわたり便中にウイルスが排泄されるため、特に患者や回復者に対して用便後の手洗いを徹底させることが重要です。

ヘルパンギーナ患者報告数（岐阜県：53定点）

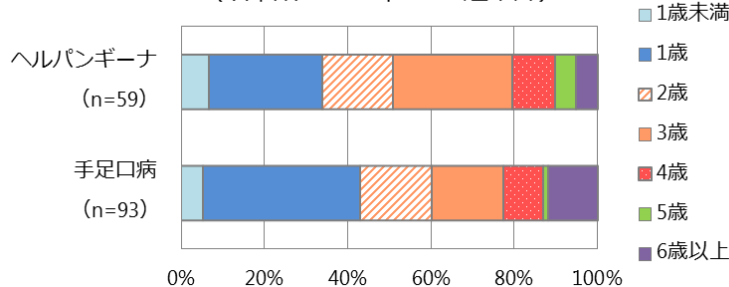


手足口病患者報告数（岐阜県：53定点）



患者の年齢階級別割合

(岐阜県：2016年1~25週累計)



★ヘルパンギーナ・手足口病とは

エンテロウイルスの感染による小児の夏かぜの代表的な疾患です。ヘルパンギーナは口内の水疱性発疹と発熱、手足口病は手のひらや足の裏、口内の水疱性発疹を特徴とします。基本的には予後良好な疾患ですが、無菌性髄膜炎や急性脳炎を合併することもあります。

★感染症法における取扱い

ヘルパンギーナと手足口病は、感染症法において5類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約3,100か所（岐阜県53か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。（保健医療課 HP）

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kansenshouhou-kijun.html>